

国名 ベトナム	中部地域都市上水道事業体能力開発プロジェクト
------------	------------------------

## I 案件概要

事業の背景	ベトナムでは、増加する都市人口への十分かつ信頼性の高い安全な水供給が課題であった。建設省（MOC）は、「安全な水の供給」を優先分野に設定し、2008年に水道事業体（WSC）に対して水安全計画（WSP）の責任を負うように規則を発令するとともに、人材育成体制の強化を図っていた。北部地域と南部地域には研修センターが設置されており、安全な水供給の緊急課題の1つとして中部地域のWSCの能力開発が残っていたため、2009年にはトゥアティエンフエ（以下、「フエ」と記す）省に中部地域水セクター研修センター（TC）の設立が決定された。一方、フエ水道公社（HUEWACO）は、JICAの技術協力プロジェクト「ベトナム国中部地区水道事業人材育成プロジェクト」（2007年～2009年）の協力の下、WSPを完成させ、2009年にフエ市の「安全な水宣言」を行っており、終了時評価において、同事業を通じてHUEWACOが習得した技術的なノウハウを中部地域の他のWSCに広く普及させることが提言された。												
事業の目的	<p>本事業は、ベトナムの中部地域において、関連機関との協力を通し、WSPに方向付けられた人材管理に関するWSC上層部の意識向上、新設のTCにおけるWSCの既存職員対象の短期の再訓練コースの確立、及びWSC運用ハンドブック<sup>1</sup>の推奨を通じて、WSCの人材育成の開始を図り、もって安全な水供給のためのWSCの能力強化を目指した。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>上位目標：中部地域において、安全な水供給のためのWSCの能力が強化される。</li> <li>プロジェクト目標：中部地域において、水安全計画（WSP）に関するWSCの人材育成が、関連機関<sup>2</sup>の協力の下で開始される。</li> </ol>												
実施内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>事業サイト：中部地域（合計18省/市<sup>3</sup>）</li> <li>主な活動 <ul style="list-style-type: none"> <li>MOCによる、18WSC上層部対象の、WSPに方向づけられた国内ワークショップ・スタディツアーの開催</li> <li>TCによる、WSPに方向づけられた再訓練コースの開発、講師に対する指導者研修、TCによる再訓練コースの実施・再訓練マニュアルの作成</li> <li>HUEWACOの運用ハンドブックの更新/改善、同ハンドブックに基づく他のWSCのための参照用ハンドブックの作成、5つのパイロットWSC<sup>4</sup>によるハンドブックの現場適用に対するHUEWACOの支援</li> </ul> </li> <li>投入実績 <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%;">日本側</td> <td style="width: 50%;">相手国側</td> </tr> <tr> <td>(1) 専門家派遣 25人（長期4人、短期21人）</td> <td>(1) カウンターパート（C/P）配置 29人（MOC2人、TC7人、HUEWACO20人）</td> </tr> <tr> <td>(2) 研修員受入 32人</td> <td>(2) 土地・建物・施設提供 TC及びHUEWACOにおける専門家の執務スペース、TCの2棟及び研修ヤード、研修用設備等</td> </tr> <tr> <td>(3) 機材供与 配水管理・設備維持管理・水質管理・研修管理用機材等</td> <td>(3) 経常費 C/Pの日当、事務経費、ワークショップ経費、TCの既存2棟の修復費、研修ヤード建設費等</td> </tr> <tr> <td>(4) ローカルコスト 研修・ワークショップ・スタディツアー参加者の旅費等</td> <td></td> </tr> </table> </li> </ol>			日本側	相手国側	(1) 専門家派遣 25人（長期4人、短期21人）	(1) カウンターパート（C/P）配置 29人（MOC2人、TC7人、HUEWACO20人）	(2) 研修員受入 32人	(2) 土地・建物・施設提供 TC及びHUEWACOにおける専門家の執務スペース、TCの2棟及び研修ヤード、研修用設備等	(3) 機材供与 配水管理・設備維持管理・水質管理・研修管理用機材等	(3) 経常費 C/Pの日当、事務経費、ワークショップ経費、TCの既存2棟の修復費、研修ヤード建設費等	(4) ローカルコスト 研修・ワークショップ・スタディツアー参加者の旅費等	
日本側	相手国側												
(1) 専門家派遣 25人（長期4人、短期21人）	(1) カウンターパート（C/P）配置 29人（MOC2人、TC7人、HUEWACO20人）												
(2) 研修員受入 32人	(2) 土地・建物・施設提供 TC及びHUEWACOにおける専門家の執務スペース、TCの2棟及び研修ヤード、研修用設備等												
(3) 機材供与 配水管理・設備維持管理・水質管理・研修管理用機材等	(3) 経常費 C/Pの日当、事務経費、ワークショップ経費、TCの既存2棟の修復費、研修ヤード建設費等												
(4) ローカルコスト 研修・ワークショップ・スタディツアー参加者の旅費等													
協力期間	2010年6月～2013年6月（3年間）	協力金額	（事前評価時）300百万円、（実績）286百万円										
相手国実施機関	責任機関：建設省（MOC） 実施機関：中部地域水セクター研修センター（TC）、フエ水道公社（HUEWACO）（2017年よりフエ上水道株式会社）												
日本側協力機関	厚生労働省、横浜市水道局												

## II 評価結果

### 【事後評価における留意点】

- ・上位目標の目標年：プロジェクトデザインマトリックス（PDM）に目標年は示されていないが、詳細計画策定調査報告書では、上位目標を事業完了から3～5年後に達成が見込まれる目標であると定義していることから、本事後評価においては、目標年を事業完了から5年後（2018年6月）に設定する。事後評価時に上位目標が未達成/部分的に達成であった場合は、目標年までの達成見込みを判断根拠とともに確認する。
- ・上位目標の指標a（「18WSCにおいてWSPの準備段階が進む」）：PDMの脚注によれば、WSP準備の進捗度は事業開始時の状況と比較することになっているが、事業開始時（2011年2月）に情報が収集されたのは11WSCのみであるため、他の7WSCについては進捗度を評価することはできない。また、11WSCのうちHUEWACOについては、事業開始前にWSPが完成していた。以上から、指標aの調査対象は残りの10WSCとし、代替指標「事業開始時の情報が入手可能な10WSCにおいてWSPの準備段階が進む」を使用する。

### 1 妥当性

#### 【事前評価時・事業完了時のベトナム政府の開発政策との整合性】

事前評価時及び事業完了時、給水サービスの改善は、「社会経済開発10カ年戦略」（2006年～2015年）、「社会経済開発5カ

<sup>1</sup> 5つの技術分野（浄水処理、配水管理、設備の維持管理、人事管理、顧客サービス）及び人材開発分野の運用ハンドブック。

<sup>2</sup> 関連機関には建設省、WSC、研修機関、ベトナム上下水道協会（VWSA）、省人民委員会（PPC）が含まれる。

<sup>3</sup> ゲアン省、ハティン省、クアンビン省、クアンチ省、フエ省（北中央沿岸部）；ダナン市、クアンナム省、クアンガイ省、ビンディン省、カインホア省、フイエン省、ビントゥアン省、ニントゥアン省（南中央沿岸部）；コントゥム省、ザーライ省、ダクラク省、ダクノン省、ラムドン省（中部高原）。

<sup>4</sup> ゲアン省、クアンチ省（中央沿岸部）；ダナン市、カインホア省（南部沿岸部）；ダクラク省（中部高原）のWSC。

年計画」(2011年～2015年)、「2025年までの都市部における給水開発の方針及び2050年までのビジョン」(2009年承認)などのベトナム政府の政策文書において優先課題として位置づけられていた。

**【事前評価時・事業完了時のベトナムにおける開発ニーズとの整合性】**

上記「事業の背景」で説明したように、事前評価時、中部地域のWSCの安全な水に方向づけられた能力開発のニーズは高かった。2012年には、WSPの準備手続を規定したMOCの通達(本事業で推進した世界保健機構(WHO)のガイドラインに準拠)が出されており、事業完了時、WSCには上記通達に従うための能力が必要であった。

**【事前評価時における日本の援助方針との整合性】**

「対ベトナム国別援助計画」(2009年)は、4つの援助重点分野の1つとして「環境保全」を掲げ、水質管理と給水に係る施設の新設・改善及び都市環境管理(行政能力を含む)を重点的に支援するとしており、本事業は同計画と合致している。

**【評価判断】**

以上より、本事業の妥当性は高い。

**2 有効性・インパクト**

**【プロジェクト目標の事業完了時における達成状況】**

プロジェクト目標は事業完了までに達成された。PDMで想定されていた中部地域の人材育成の具体的計画(案)の代わりに<sup>5</sup>、MOCが開催したスタディツアー・テーマ別ワークショップ等を通して関連機関の意見を集約した「WSC人材育成政策」(案)が作成された<sup>6</sup>(指標a)。新設されたTCでは、HUEWACOとの協力の下、WSPに係る18の再訓練コースが実施され、18WSCから累計で349人が参加した(指標b)。また、5つのパイロットWSCすべてが、WSPの第一稿を作成した(指標c)。

**【プロジェクト目標の事後評価時における継続状況】**

事業の効果は継続している。「WSC人材育成政策」(案)は、MOCの予算不足で最終化されなかった。しかしながら、人材育成体制における関連機関の役割・機能等、同案のアイデアの一部は、「2016年～2025年の安全な給水確保に係る国家プログラム」を承認した2016年の首相決定に反映された。同プログラムの実施期間中には、WSCの人材育成に係る政策が策定される見込みである<sup>7</sup>。一方、TCでは、本事業で開発した資料を活用したWSCの再訓練コースが引き続き行われている。2013年6月から2017年6月までの間に、WSCからの要請に基づいて35コースが実施され、累計676人が参加した。年平均参加者数は、事業実施中とほぼ同レベルである。さらに、5つのパイロットWSCのすべてでWSPが完成されており、うち2つのWSPは既にPPCによって承認され、実行に移されている。また、5つのうち4つのパイロットWSCにおいて、本事業で作成した5つの技術分野すべての運用ハンドブックが活用されており、人材育成分野のハンドブックについても事業完了後に完成・活用されている。残るWSCでは、一部のハンドブックが、進行中の民営化及び組織体制・設備の改善の完了後に見直される計画であるため、活用が一時的に中断されている。

**【上位目標の事後評価時における達成状況】**

上位目標は事後評価時までに達成された。ほとんどのWSCでWSPの準備段階の進展がみられる(指標a代替指標)。5つのパイロットWSCすべてでWSPが完成している(指標b)。さらに、事業開始前にWSPが完成していなかった17WSCのうち、その他の7つのWSCでもWSPが完成している。また、すべてのパイロットWSCで、残留塩素及び濁度の測定値が、基準年(2010年)と比較して、改善されているか国家の飲料水水質基準内にある(指標c)。

**【事後評価時に確認されたその他のインパクト】**

本事業による自然環境、社会環境への負のインパクトは発生していない。一方、その他の正のインパクトは多く発現している。例えば、事業実施中に強化されたTCとHUEWACOの協力関係はさらに発展している(下記「持続性」の「体制面」を参照)。すべてのパイロットWSCは、リソース機関として、本事業で習得した知識とスキルを他のWSCに共有している。さらに、その他のWSCは、本事業で開発した参照ハンドブック及び同マニュアルを用いて、独自の運用ハンドブックを作成済みあるいは作成中である。また、本事業実施中に生まれた実施機関(TC及びHUEWACO)と協力機関(横浜市水道局)との協力は、ダナン市のWSC(DAWACO)、南部地域のWSC及び研修センターにも拡大された(6者間協力(2015年～2018年))。

**【評価判断】**

以上より、本事業の実施により、事業完了時にプロジェクト目標は達成され、事後評価時には効果が継続しており、上位目標も達成された。その他の正のインパクトも多く発現している。よって、本事業の有効性・インパクトは高い。

プロジェクト目標及び上位目標の達成度

目標	指標	実績
プロジェクト目標 中部地域において、水安全計画(WSP)に関するWSCの人材育成が、関連機関の協力の下で開始される	(指標a) 関連機関の協力を通して、中部における人材育成の具体的な計画(案)がMOCにより作成される。	達成状況：達成(一部継続) (事業完了時) ・「WSC人材育成政策」(案)が作成された。 (事後評価時) ・「WSC人材育成政策」(案)は最終化されず、2016年の首相決定に同案のアイデアの一部が反映された。
	(指標b) 研修センターのWSPに関する研修コース参加者数(18WSCから192人以上)	達成状況：達成(継続) (事業完了時) ・2011年から2013年の2年間に18コースが開催され、18WSCから349人が参加した。 (事後評価時) ・2013年6月から2017年6月の4年間に35コースが開催され、5WSC <sup>8</sup> から676人が参加した。事業完了後の年平均参加者数(169人)は事業実施中(175人)の97%である。

<sup>5</sup> 全国を対象とする政策案の作成は、終了時評価に合わせて開催された第3回合同調整委員会(2013年1月)で議論され、合意された。  
<sup>6</sup> 事業完了後、同案は、MOCの行う全国のWSCの人材育成状況の調査の結果を反映して修正され、修正案はPPC、WSC、関連機関への聴取の上最終化されることになっていた(事業完了までに調査事項も作成・合意されていた)。  
<sup>7</sup> 首相決定自体は安全な給水のための能力開発に係る職務に言及しているのみであるため、MOC及び関連機関は同決定の実施のための詳細な指針書を作成する必要がある。  
<sup>8</sup> TC所長によれば、中部地域の他のWSCは再訓練のニーズがないか、VWSAや近隣の大学など、他の研修提供機関を利用している。

	(指標 c) プロジェクト終了時までパイロット WSC において、WSP のドラフトが作成される。	達成状況：達成（継続） (事業完了時) ・すべてのパイロット WSC において、WSP の第一稿が作成された。 (事後評価時) ・すべてのパイロット WSC において WSP が完成した。このうち 2 つの WSP は PPC によって承認されており、2 つは PPC に提出され承認待ちである。残りの 1 つは 2017 年 8 月に完成したところである。																																		
上位目標 中部地域において、安全な水供給のための WSC の能力が強化される。	(指標 a) 18WSC において WSP の準備段階が進む。  (代替指標) 事業開始時の情報が入手可能な 10WSC において WSP の準備段階が進む。	(事後評価時) おおむね達成 ・調査した 10WSC のうち 8WSC で WSP の準備段階が進んだ。 ・1WSC は民営化の最中にあるため WSP の作成を延期している。 ・1WSC は WSP を引き続き作成しているが、各段階における明確な進捗がみられない。																																		
	(指標 b) パイロット WSC において WSP が完成する。	(事後評価時) 達成 ・WSP は 5 つのパイロット WSC すべてで完成した。																																		
	(指標 c) 水質の主要項目 (残留塩素、濁度) において、パイロット WSC の水質がプロジェクト開始時と比べて向上する。	(事後評価時) おおむね達成 ■パイロット WSC の年間平均残留塩素、濁度																																		
		<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">パイロット WSC</th> <th colspan="2">残留塩素 (mg/l) ※</th> <th colspan="2">濁度 (NTU) ※</th> </tr> <tr> <th>2010 年 (基準年)</th> <th>2016 年</th> <th>2010 年 (基準年)</th> <th>2016 年</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ゲアン省</td> <td>0.5</td> <td>0.35-0.5</td> <td>0.28</td> <td>0.575-1.25</td> </tr> <tr> <td>クアンチ省</td> <td>0.28</td> <td>0.36</td> <td>1.72</td> <td>0.9</td> </tr> <tr> <td>ダナン市</td> <td>0.7</td> <td>&lt; 0.5</td> <td>0.57</td> <td>0.5</td> </tr> <tr> <td>カインホア省</td> <td>0.89</td> <td>0.68</td> <td>0.39</td> <td>0.43</td> </tr> <tr> <td>ダクラク省</td> <td>0.48</td> <td>0.43</td> <td>n/a</td> <td>0.42</td> </tr> </tbody> </table> <p>※国家飲料水水質技術基準は 0.3~0.5mg/l (残留塩素)、2NTU 以下 (濁度)。 ※インタビューに回答した WSC は、残留塩素の国家基準はやや非現実的であるとコメントし、より実用的な適正範囲として 0.1~1mg/l を挙げた。</p>	パイロット WSC	残留塩素 (mg/l) ※		濁度 (NTU) ※		2010 年 (基準年)	2016 年	2010 年 (基準年)	2016 年	ゲアン省	0.5	0.35-0.5	0.28	0.575-1.25	クアンチ省	0.28	0.36	1.72	0.9	ダナン市	0.7	< 0.5	0.57	0.5	カインホア省	0.89	0.68	0.39	0.43	ダクラク省	0.48	0.43	n/a	0.42
パイロット WSC	残留塩素 (mg/l) ※			濁度 (NTU) ※																																
	2010 年 (基準年)	2016 年	2010 年 (基準年)	2016 年																																
ゲアン省	0.5	0.35-0.5	0.28	0.575-1.25																																
クアンチ省	0.28	0.36	1.72	0.9																																
ダナン市	0.7	< 0.5	0.57	0.5																																
カインホア省	0.89	0.68	0.39	0.43																																
ダクラク省	0.48	0.43	n/a	0.42																																

出所：業務完了報告書、MOC、TC、WSC への質問票調査及びインタビュー

### 3 効率性

本事業では、協力金額、協力期間ともに計画内に収まった (計画比：95%、100%)。よって、効率性は高い。

### 4 持続性

#### 【政策制度面】

給水サービスの改善は、「第10次社会経済開発戦略」(2011年~2015年)、「社会経済開発5カ年計画」(2016年~2020年)、「2025年までの都市部における給水開発の方針及び2050年までのビジョン」(2016年~2025年)、「2016年~2025年の安全な給水確保のための国家プログラム」において、引き続き優先課題として位置づけられていた。

#### 【体制面】

中部地域における安全な給水及びWSCの能力向上のための組織体制は確立されている。MOCでは、水道局が政策に係る事項を担当している。TCは中部地域のWSCの再訓練コースを担当しており、事業完了後に実施されたコースと参加者の数は本事業実施中とほぼ同じレベルである。本事業で強化されたTCとHUEWACOの協力は維持されており、作業員の技術水準向上のための新たな訓練プログラムを共同で開発中である。さらに、HUEWACOは、横浜市水道局を含む日本のパートナーとの協力を通じ、他のWSCへの研修を始めている。2018年には全国のWSCを対象とした訓練センターを設立する予定である。WSCの給水に係る役割に変更はないが、ほとんどのWSCが国有企業から株式会社に移行しており、民間セクターの関与により、WSCの管理・運営はより効果的かつ効率的になることが期待される。人員配置については、TCの講師数は7人から10人に増加しており定員を充足したため、WSCの人材育成を行う上で十分だと考えられる。HUEWACOの職員数は、WSPの実施及び他のWSCに対する技術訓練という、事業効果継続に必要な業務を現行の人員で遂行できているため、十分であると思われる。人事管理分野の職員数は定員に満たないものの、情報技術を活用して業務が行われている。また、各パイロットWSCは、管轄の給水区域に安全な水を供給する上で、職員 (人材育成担当を含む) の数は十分であるとみなしている。

TC、HUEWACO、パイロット WSC の職員数 (単位：人)

人員配置	TC (講師)	HUEWACO	ダナン市	ゲアン省	クアンチ省	ダクラク省	カインホア省
定員	10	453	354	n/a	n/a	n/a	n/a
職員数	10	438	360	324	205	116	193

出所：TC、各WSC

#### 【技術面】

実施機関及びパイロットWSCの技術と知識は本事業の効果を持続させる上で十分であると考えられる。MOCでは、中心的なC/Pは異動・昇進したが、水道局の職員によれば、本事業に関する引継ぎは十分であった。TC、HUEWACO、及びパイロットWSCでは、本事業で訓練を受けたC/P及び職員のほとんどが引き続き勤務している。TC所長によると、TCの講師は、事業完了後に配置された新任講師を含めて、WSCの再訓練を実施する上で十分な技術を有しており、TCでは、WSCのニーズに応えるために、本事業で開発された資料を活用・改訂/カスタマイズしている。HUEWACOは、TC及び横浜市水道局との継続的な協力を通じて、他のWSC

<sup>9</sup> PDMによれば、「WSPの準備段階」はWHOの「WSP作成の10段階」に基づき、事業開始時の状況と比べて評価される。

に技術訓練を行う能力をさらに向上させている。本事業で更新/改善した運用ハンドブックは、実際の運営状況を反映して定期的に更新しながら活用している。さらに、すべてのパイロットWSCは、職員が運用ハンドブックに従って業務を遂行する上で十分な技術と知識を有していると考えている。また、TC及びHUEWACOへの供与機材については管理責任者が任命されている。TCの機材は良好な状態であることが確認されたが、再訓練コースの多くが費用効率を鑑みて各WSCで実施されているため、十分に活用されていない。HUEWACOの供与機材は、自動水質測定装置を除いて良好な状態で活用されている。HUEWACOの研修・人材開発部副部長によると、同装置は、フエの厳しい気象条件のために供与された4台のうち3台が故障しているが、補修用部品の購入費が新規機材の購入費に比べて高額であるため、修理が行われていない。HUEWACOでは、今後、よりフエの気象条件に適した新規機材を購入し、供与機材と交換する計画である。

#### 【財務面】

TCの財源は研修受講料とCUWCからの財政的支援（人件費を含む）で構成される。2014年から2016年の年間予算は、それぞれ1億ベトナムドン（VND）、4.94億VND、3.55億VNDである。この間、WSCから要請のあった再訓練コースが計画どおりに実施され、支出が予算内に収まっているため、予算は十分だと考えられる。HUEWACOの2016年の予算は4,441億VNDであり、研修・人材開発部副部長によれば、他のWSCに研修を提供するための予算は確保されてきた。故障した供与機材については、上述の通り新規機材との交換計画はあるものの、事後評価時現在、そのために必要な予算は措置されていない。パイロットWSCについては、2016年の収入は、ダナンで4,080億VND、ゲアンで1,840億VND、ダクラクで1,100億VND、カインホアで2,500億VNDであった。2014年から2016年までの3年間、収入は計画以上あるいは計画通りであり、支出は予算範囲内であったため、各WSCでは、効果継続のために必要な予算（すなわち安全な水の供給に必要な予算）が確保されていると考えられる。

#### 【評価判断】

以上より、実施機関の技術面、財政面に一部問題があり、本事業によって発現した効果の持続性は中程度である。

#### 5 総合評価

本事業は、プロジェクト目標（「中部地域において、水安全計画（WSP）に関するWSCの人材育成が、関連機関の協力の下で開始される」）を達成した。事業の効果は継続し、上位目標（「中部地域において、安全な水供給のためのWSCの能力が強化される」）も達成した。その他の正のインパクトも多く発現した。持続性については、技術面及び財政面に一部問題がある（TCで実施される再訓練コースの少なさによる供与機材の活用度の低さ、新規機材購入予算の遅れによる、HUEWACOに供与された自動水質測定装置の維持管理の問題）が、政策面及び体制面の持続性は確保されている。以上より、総合的に判断すると、本事業の評価は非常に高いといえる。

### III 提言・教訓

#### 実施機関への提言：

TCの設備及び講師の質を考慮すると、TCには既存需要より多くの再訓練を実施する十分な能力がある。TCは、WSCのさらなる研修需要を喚起するために、直ちにマーケティング活動を実施することが推奨される。WSCが一年のどの時期に職員研修を行う可能性が高いかを把握し、マーケティング計画を毎年策定すべきである。また、各WSCの要請に応じた研修に加えて、事前にWSCと協議を行い、複数のWSCを対象とした研修をTCで開催するイニシアティブをとることが推奨される。

#### JICAへの教訓：

##### 1. 良かった点：

本事業実施中に強化されたTCと能力の高いWSC（HUEWACO）の協力モデルは、研修プログラムの開発・実施において能力の高いWSCをロールモデル及び実践的トレーナーとして巻き込んだ好事例である。他のWSCへのトレーナーとしてのHUEWACOの役割は効果的であったことが事業実施中に示され、事後評価時には、その役割は、HUEWACO自身によって強く推進されている。HUEWACOの能力は、本事業を通じた運用ハンドブックの見直し・更新によってさらに向上しており、HUEWACOは、事業完了後、実際の運営状況を反映してハンドブックを定期的に更新しながら活用している。能力の高いWSC（HUEWACO）のハンドブックに倣った運用ハンドブックを作成・推進することも効果的であると思われる。すべてのパイロットWSCは事業実施中に独自の運用ハンドブックを作成し、ほとんどのWSCが事後評価時にこれらのハンドブックを利用しているという事実は、本事業の効果の継続性を示している。

また、HUEWACOがJICA技術協力プロジェクト「中部地区水道事業人材育成プロジェクト」（2007年～2009年）を通して獲得した技術的なノウハウが、本事業にて中部地域の他のWSCに広く広まった。本事業は、先行JICA技術協力プロジェクトで能力強化されたカウンターパートを活用した好事例といえる。

##### 2. 改善されるべきだった点：

ベトナム側によって政策が最終化されることを前提に、本事業同様の政策立案活動を実施する際には、活動が事業完了の少なくとも1年前に開始され、事業完了前に、ベトナム側、日本側両者のインプットを反映した完全な案を作成することが望ましい。

また、今後の事業では、屋外に設置する供与機材については、気候条件などの自然環境を考慮して機材を選択する必要がある。季節による温度差が大きく雨季には集中的な降雨と高い湿度にみまわれるというフエの厳しい気候が、HUEWACOに供与された機材の一部が故障した一因となった。供与先の機関において補修用部品の調達が可能かどうかとも考慮すべきである。



良好な状態にある TC への供与機材



DAWACO で活用されている運用ハンドブック一式